

街のヒーロー・ヒロインを探せ！

地域にいるすごい人を
ドキュメンタリーにしてみよう！

上田市立 清明小学校

5年1組

街には自慢できるすごい人がいる！
地域の人たちのドキュメンタリーを制作。
取材から撮影、編集まで自分たちで行い
地元の魅力を再発見しました。

取り組みの流れ

総合的な学習で映像制作

4年生……創作ドラマ作りを体験

5年生……テーマは「地域」
「街のヒーロー（ヒロイン）を探せ」
ドキュメンタリー作りを計画

5月

取材する人を決める

保護者に学級通信で協力を依頼

- 取材する人の紹介
- 使用するカメラ、有無の確認

6月

ドキュメンタリーの目的を考え、
誰を、どんな場面で、
どんな質問をするのかを検討

取材のお願いの言葉も考える

取材方法、取材内容、
インタビューの仕方
ビデオの撮り方を学習

練習 家族のドキュメンタリー
「家族のヒーローを探せ」制作



ビデオ取材・編集

7月

地元ケーブルテレビの協力

取り組みを取材してもらう
ビデオカメラの貸し出し

カメラとインタビューのコツを
アドバイスしてもらう



取材のお願い・許可を取りに行く

保護者にも協力

8月

取材（夏休みの宿題として）

仕事や活動に誇りを持って取り組む
地域の人たち……「取材してもらつてうれしい」と大変喜ばれました。

取材の様子が上田ケーブルビジョンのニュース番組でも紹介されました。

9月

パソコンで編集、試写会

DVDにして完成！

10月

取材した人へお礼、DVDを届ける

12月

地域の人を招き、上映会

ケーブルテレビで作品を放送

インタビューの事前練習



5年1組の子どもたちに出された宿題は
「ドキュメンタリー番組の取材」

協力：松本市立中山小学校、上田市立清明小学校、株式会社上田ケーブルビジョン（UCV）

発行日：平成29年1月20日 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 地域福祉部 ボランティア振興グループ

〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130

E-mail vcenter@nsyakyo.or.jp URL http://www.nsyakyo.or.jp/



小学生ボランティア新聞 ふろく

ぼくらは子どもディレクター！

*本紙の特集事例をよりくわしく解説！あわせてご活用ください。

番組ディレクターや編集長になって

まちの魅力を発信しよう！



上田市立 清明小学校

街のヒーロー・ヒロインを探せ！



松本市立 中山小学校

バスが廃止されても
中山を忘れないで！

事例の概要

手作りの新聞とパンフレットに
ふるさとへの思いを込めて

「中山にお越しください！」平成28年9月、松本市立中山小学校の4年生と6年生が、松本駅前と松本城公園で地元をPRするパンフレットと新聞を配布しました。きっかけは市街地と中山を繋ぐ路線バス廃止のニュースでした。4年生の新聞を作る単元と6年生のパンフレットを作る単元を使い、「中山をPRしよう」と取り組みは始まりました。

「廃線と聞いて、指をくわえて見ている人にしたくなかった。自分たちにできることを考えたり、なにか動いてもらいたかった。」と4年生担任の柿沼佑樹先生は当時を振り返ります。

新聞とパンフレットは、地元の方への取材や写真撮影など、すべて子どもたちが行い作成しました。「自分たちも知らないことがあった」「中山の良いところをたくさん知れた」と子どもたち。取材をするなかで、地元の良さにたくさん気づくことができたようです。

「新聞づくりをとおして、子どもたちも地域への関心が高くなった」と柿沼先生。「外へ向けて呼びかけることも大事ですが、子どもたち自身が「こんなにいい所があるんだ」と気づいて、大人になったときに戻って来たいと思う気持ちを育てるきっかけになれば」と6年生担任の今井文先生は続けます。

見出しへは「中山に来てください」「良い所です！」の文字。中山への熱い想いが伝わってきます。

街の魅力を再発見！ 地域の人が
主役のドキュメンタリーを制作

上田市立清明小学校5年1組では、「街のヒーロー・ヒロインを探せ！」をテーマに、地域の方を主役にしたドキュメンタリーを制作しました。4年生のときにクラスで創作ドラマを作ったのがきっかけです。

「なにかを創ることに対して子どもたちはとても真剣でした。せっかくなら、制作をとおして自分たちの住む街のことを知れないかと考えました」と話すのは担任の平林浩先生です。

「地域のために活動してくださっている方や、頑張っている方など、身近にもヒーローやヒロインはたくさんいます。そのような方がいるから、街が成り立っている。ドキュメンタリー制作をとおして、地域の良さを再発見できればと思い、始めました」。

1学期には児童一人ひとりが取材をしたい人を決め、夏休み中に撮影に行きました。地域のために頑張っている自治会長さんや、毎日見守りしてくれる安全パトロール隊の方、地域の環境を守ってくれている方、など思い思いの「街のヒーロー・ヒロイン」を取材しました。

ドキュメンタリーの完成後、学校に地域の方を招待して上映会を行いました。取材を受けた方からは、「私が伝えたかったことがきちんと伝わっていて嬉しかった」「これからも地域のこと興味を持っていてほしい」など、多くの感想を頂きました。

ドキュメンタリー作品は12月には地元のケーブルテレビでも放送されました。地域の方の想いは、ドキュメンタリーをとおして子どもたちへ、そして大人たちにも広がっています。

先生方へ
やまびこだより
No.142
今号の特集から



路線バス
中山線

廃線になつても中山を忘れないで

手作り新聞・パンフレットを
配つてふるさとをPRしよう！

「地域のために
何ができる？」
を考えながら…

松本市立 中山小学校



中山はいいところです。
ぜひお越しください！



「子どもたちが地域のために
がんばっているのだから」と、
公民館の方がPR用のぼり旗
を作ってくださいました。

新聞作り

4年生



4コマまんがを
考えるのが
大変だった。



NHK番組「for School Media」
の工夫がいっぱい！新聞作りを見て学びました。

●紙面づくりのポイントは？

- ①見出しづくり
一番伝えたいことを
- ②どんな写真を選ぶか
記事の内容が一目で伝わる写真
- ③配置を決める
重要な記事の順番、どこに置くか

中山の良さを
たくさん的人に
知ってもらいたい！



「中山新聞」はA3判で手書き。
4年生17人が1人1紙を制作。

JR松本駅前広場と松本城公園で、
出来上がった新聞とパンフレットを
配りながら、元気よく中山をPR！

ねらい

調べて、作って、配つて発信！
子どもたちによる“地域おこし”です

中山小学校に赴任して3年目、以前から新聞活用(NIE)の実践を続けています。

今回は中山線の廃線と学区にある考古学博物館の利用率もよくないという新聞記事を見て、学習のテーマに取り上げました。

子どもたちには、バス路線の廃止という地域課題に対して傍観者ではなく、「バスがなくなったらどうする?」と考え、動いてもらいたかったんです。作つて配るという目的があつたので、見出しの文章や色づかい、写真の選び方など、各自伝えるための工夫をしていました。考古博物館の取材でも掘り下げる質問をする子もいました。

新聞を作つて配ることで、子どもたちは地域への関心を深め、よい地域発信ができたのではないかと思います。

パンフレット作り

6年生

ねらい

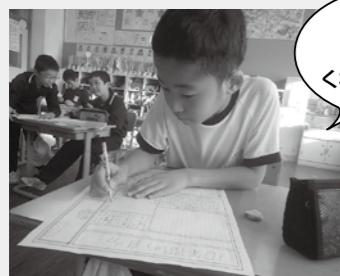
中山を離れても、いつか戻つてきたいな
……と思ってもらいたい

中山小学校 6年生担任
今井文先生

4年生が新聞を配布するとい
うので、6年生も一緒に参加
することにしました。

中山の良さを知つてもらいたいと、
読む人のことを考えて書いた文章には想
がこもっています。他人事には思えず、自分たちも伝
えていかなくては! という気持ちになったのではない
でしょうか。

PRをとおして外に発信するとともに、子どもたち自
身が中山に愛着を持って、「こんないい所があるん
だ」と気づき、大人になったときに「ここに戻つてき
たいな」という思いを育てるきっかけになればと思つ
ています。



新聞を見て
中山に来て
くれるといいな。



新聞の配布準備。
A4判に縮小コピーして
1人20部ずつ配りました。



中山小学校 4年生担任
柿沼佑樹先生



中山にはこんな
いいところが
あったんだ。



パンフレットの配布準備。
アンケートはがきも一緒に
配りました。

インターネットや本で調べたり、
地域の方からも中山のいい所を教えてもらったり……。
自ら撮影した写真やイラスト、
地図なども載せ、パソコンを使ってレイアウトしました。

読んだ人が
喜んでくれると
思いながら作ると
楽しいね。